



令和8年度 10月号 令和8年9月30日

新治小学校だより

みつめる かかわる かんがえる



にいはるん

「優しい眼差し」 ～子どもたちが「映画ちいかわ」から見つけたもの～

校長 古屋 澄人

この夏、大きなヒット作となった「映画ちいかわ 人魚の島のひみつ」（以下「映画ちいかわ」）。先日、朝日新聞の「天声人語」や文化面でも「思わぬストーリー評価」として大きく取り上げられていました。大人の心も引き込む奥深いストーリーであるという記事に魅せられ、私も映画館へ足を運んできました。かわいらしいキャラクターたちが繰り広げる冒険劇でありながら、命や友情、そして人間の複雑な心模様について深く考えさせられる場面が数多く散りばめられた作品でした。

さっそく映画を見たという2年生から5年生の数人の子どもに映画の感想をインタビューしてみると、学年ごとの成長や見方の深まりが感じられました。2・3年生の子どもたちは、「キャラクターの動きが面白い」「船に乗って島へ行くシーンがワクワクした」「急に顔が怖くなるところにヒヤッとした」など、直感的で豊かな感想を話していました。5年生は、登場人物の複雑な心理にまで思いを寄せていました。主人公のちいかわが「あえて何も言わない」選択をした場面については、「言ったら気まずくなるから」「せっかく助けてくれた相手への思いやり」と解釈し、言葉の奥にある相手との関係性を大切に捉えていました。また、物語の中で起こる過ちに対し、双方の立場や背景を踏まえた多角的な視点で捉えていました。「悪気がないのに知らずに相手を傷つけてしまう」という状況を、日常の身近なきょうだい喧嘩になぞりながら、「この映画のテーマは絆」「単純に一方が悪者とは言いきれない」と語る姿には、二項対立を超えた共感する思いが表れていました。

こうした子どもたちの「双方の立場を捉える柔軟な思考」や「他者への温かい眼差し」は、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果とも強く響き合っています。本校の調査分析からは、次の「3つの強み」が明確になりました。

① 高いICT活用・探究力

多角的な視点で課題を設定し、情報を収集・分析する力が育っています。文章や映像の深層を読み解く力にもつながっています。

② 高い夢と他者貢献への志

地域や社会、周りの人のために役立ちたいという強い思いがあり、地域とのつながりを大切に作る姿が見えてきます。

③ 規則正しい生活習慣

朝食の摂取やメディアバランスなど、ご家庭と連携した健康的な生活基盤が確立されています。

一方で、今回の調査では今後の課題も明らかになりました。自分の考えを文章で伝えることへの苦手意識や、「周りとは違う意見を言ったら否定されないか」という心理的な不安を感じている児童が一定数存在することです。そのために、子どもたちが安心して過ごすことができるように、「違って当たり前」「人と違う意見こそ価値がある」という文化を醸成し、互いの発言を認め合う環境をつくります。また、国語科や算数科をはじめ全教科で、ICT機器や図・思考ツールを活用しながら、「自分の考えを書いて伝える・対話する」楽しさを実感できる授業づくりを進めます。

「映画ちいかわ」で子どもたちが感じ取った「絆」は、学校生活や行事、そして地域社会での様々な人との関わりを通して、より強固なものへと育まれていきます。子どもたちがもつ「高い志」と「優しい眼差し」を大切に伸ばし、誰もが安心して自分らしさを発揮できる学校を家庭・地域と一体となって築いていきたいと思います。